



若手演奏家育成プロジェクト  
**芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー**  
**芸劇×読響 ジュニア・アンサンブル・アカデミー (弦楽アンサンブル)**

Geigeki Wind Orchestra Academy  
 Geigeki X Yomikyo Junior Ensemble Academy (String Ensemble)

東京芸術劇場の若手演奏家育成プロジェクトから飛び立つ未来の精鋭たちは、何を学び、感じたのか？  
 3人のアカデミー卒業生に話を聞いた。

日々さまざまなオーケストラのコンサートが行われている東京芸術劇場において、過去7年にわたり音楽家を育成していることをご存じだろうか。2014年からスタートした「芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー」(以下、WOA。来年度より「芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド」に改名予定)は、若手の管・打楽器奏者が集い、プロとしての実力を養うためのプログラムだ。

音楽の専門的な教育機関といえば音楽大学がある。ではなぜ劇場が若手育成を行っているのだろうか。WOAの大きな特徴は、音大卒業レベル以上の基礎力を持つ人材に対し、職業音楽家として自立するための実践的な経験と学びを提供していること。トレーナーには現役オーケス

トラの管・打楽器奏者のみならず、弦楽器奏者、声楽家、ピアニスト、指揮者らがあり、音楽を多角的・立体的に教える。また「キャリアアップゼミ」を通じて、プロにとって現実的に必要なさまざまなノウハウも伝授される。

「演奏家としての自分の強みをきちんと伝えるプロフィールの書き方などもゼミで教わりました。出身校や受賞歴のみならず、音楽家として自分がどういう人間なのかを見つめ直すことができました。また、音大では習うことのない『確定申告のやり方』のような実用的なゼミが今も大いに役立っています」

そう語るのは、多数の楽団からひっぱりだこのサクソフォン奏者・神保佳祐さんだ。母校・昭和音大の教壇に立つようになった今、WOAで培っ

た視野の広さを生かして後進の指導にも当たる。

現在、神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席打楽器奏者として活躍する篠崎史門さんも、WOAでの学びが現在のキャリアに大きくつながったと感じている。

「現場のプロ奏者の先生が真横に立って、実践的・具体的に演奏で示してくださって、1人で練習しているだけでは絶対に得られないオーケストラの中での奏法を学びました。また、在籍中には音楽界の方々との出会いがあり、それが仕事につながるチャンスにも恵まれました」

劇場内でのランチタイムコンサート、アウトリーチ活動、そして現代作曲家たちの新曲を披露する年度末コンサートなど、多数の「本番」を経て、アカデミー生たちはプロの入り口に立ち、

自立してゆく。

もっと若い年代からアンサンブル能力を育てるプログラムもある。「芸劇×読響 ジュニア・アンサンブル・アカデミー」は、小4から高3までの弦楽学習者を対象としている。個人レッスンによる「習い事」として弦楽器に親しんできた子どもたちが、読売日本交響楽団の奏者から10回ほどの指導を受ける。そのお披露目は芸劇での読響定期演奏会。開演直前のステージで、楽員とともに合奏する。

現在東京藝大2年に在籍し、コントラバスを学ぶ竹岡きなりさんは、高1・2年時にアカデミー

で学んだ。読響楽員の指導を受けたことで「アンサンブルの楽しさに出会えた」と語る。

「一緒に合奏するみんなの音を聴く力がつきました。コントラバスがリードすべき箇所でも音楽的にどう仕掛けるか、そうした視点を教わることができて刺激的でした。発表会でのお客様からの温かい反応は感動的で、プロのオーケストラ奏者になりたい！という夢が明確になりました」  
 無限の可能性を秘めたアカデミー生たち。彼らの取り組みと、成長の行方にも、ぜひ注目していただきたい。

取材・文：飯田有抄 (クラシック音楽ファンリレーター)



photo:hikaru ☆



ジュニア・アンサンブル・アカデミー 分奏レッスン

2019年度WOA  
 第5回演奏会  
 (コンサートホール)



上：WOA アトリウム・コンサート サックス四重奏 TACT FESTIVAL 2019にて  
 下：ジュニア・アンサンブル・アカデミー リハーサル風景 (コンサートホール)



芸劇を  
 “ふるさと”として

お話を聞いたサックスの神保さんと打楽器の篠崎さんは、ともにWOAの第1期生だ。この日、久々に顔を合わせた2人は懐かしそうに声を交わす。WOAはオーディションで「音大卒業レベル」と認められた若手奏者が在籍できる。出身音大もさまざまで、多様なバックグラウンドを持った仲間と研鑽を積む。芸劇を拠点とした3年間を「充

実していた時間」と振り返る2人。プロとして活動していく中、さまざまな現場で「元アカデミー生」と出会うたびに、同郷で学んだ仲間意識を感じるそうだ。芸劇での演奏が、帰省先でのパフォーマンスのように感じる奏者が増えてくれることは、芸劇ファンにとっては嬉しいこと。  
 がんばれ、アカデミー生！ 未来の音楽家たち！



神保佳祐

Jinbo Keisuke

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー  
 1期生/サクソフォン  
 〈現在〉トルヴェール・クワルテット メンバー、  
 昭和音楽大学講師



篠崎史門

Shinozaki Shimon

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー  
 1期生/ティンパニ、打楽器  
 〈現在〉神奈川フィルハーモニー管弦楽団  
 首席ティンパニ・打楽器奏者



竹岡きなり

Takeoka Kinari

ジュニア・アンサンブル・アカデミー  
 2016、17年度参加/コントラバス  
 〈現在〉東京芸術大学2年生

芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー

第7回演奏会  
 2月13日(土)・14日(日)  
 東京芸術劇場シアターイースト 詳細はP10へ

芸劇×読響 ジュニア・アンサンブル・アカデミー  
 (弦楽アンサンブル)

発表会  
 3月14日(日)  
 東京芸術劇場コンサートホール  
 読売日本交響楽団の日曜マチネーシリーズ公演の開演前に開催